

「近代日本の政治思想と外交」

大久保 健 晴

私は二〇一七年度後期、丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業「比較思想」を担当させていただき、「近代日本の政治思想と外交」を主題に、東京女子大学において一四回にわたって講義を行った。授業概要は次の通りである。

「近代東アジア世界の歴史的な起源に遡り、『私たちはどこから来て、どこへ向かおうとしているのか』という問いを思想的に検証する作業は、今日きわめて重要な意義を有しています。この講義ではそのような問題関心のもと、西洋世界との文化接触に光を当てるとともに、東アジアの学問・政治・外交の動向を広く視野に入れながら、一九世紀から二〇世紀に至る近代日本の歩みについて、比較思想史の視座から検討します。」

近年、東アジア情勢は先行き不透明な展開を見せている。それは、私たちの日々の政治や経済、文化や社会生活とも極めて密接な関係を有している。本授業では、こうした現代的な諸課題を念頭に置きつつ、しかしそれを直接的に取り上げて論じるのではなく、なぜそのような

問題が生まれてきたのか、今一度歴史を遡り、その背景となる近代日本の成り立ちと東アジア秩序の変容について、学問的な観点から西洋世界との比較を通じて明らかにすることを目的とした。

具体的には、相互に関連する三つの課題を定めた。

- (1) ヨーロッパ国際法(「万国公法」)の受容を切り口に、他の東アジア諸国と比較しながら、明治日本の国家形成と外交政策の展開について、世界史の視座から理解する。
- (2) 正義と功利、あるいは儒学における「義」と「利」を巡る論争を中核に、西洋政治理論と比較しながら、近代東アジアの政治思想の特質について分析する。
- (3) 「文明」「脱亜」「帝国」を鍵概念に、近世から近代にかけて東アジア世界のなかで日本が歩んできた道のりを、複眼的かつ歴史的な視座から捉え、その本質的な課題について、自らの言葉で語る事ができる能力を身につける。

本講義の構成は、次の通りである。

1. イントロダクション―東アジア世界における学問と政治―
2. 近世東アジアの国際秩序
3. 「開国」―二つの思想類型―
4. 東アジアにおけるナショナリズムの前期的形成
5. 近代東アジアの黎明とヨーロッパ国際法受容(1)
―清朝ならびに朝鮮王朝との比較―
6. 近代東アジアの黎明とヨーロッパ国際法受容(2)
―中国經由とオランダ經由 「万国公法」を巡る比較研究―
7. 近代東アジアの黎明とヨーロッパ国際法受容(3)
―明治日本の外交と東アジア国際秩序の変容―
8. 近代東アジアにおける「功利」と「正義」
9. 「文明」と「脱亜」―福澤諭吉の政治思想―
10. 東アジアの政治哲学とデモクラシー(1)
11. 東アジアの政治哲学とデモクラシー(2)
12. 儒学とキリスト教―政治・徳・宗教―
13. 『廿世紀之怪物帝国主義』、そして明治時代の終焉
14. 「時代閉塞の現状」と超国家主義

受講者数は、学外から公開授業に申し込まれた参加者が二七名、東京女子大学の学生が一四名、合計一四一名であった。講義は毎週月曜日の三限、壇上にピアノが置かれた東京女子大学らしい趣のある、

六号館の大教室で行われた。まだ夏の暑さの残る九月末から、東京に数年ぶりの大雪が降った最終授業の一月二二日まで、毎回たくさんの方々にご出席いただき、教室は常にいっぱい状態であった。

受講者のなかには、「大学時代に丸山先生の東洋政治思想史の講義を拝聴した」という方もいらした。ご自身の意志でご応募いただいた、シニアの方々を中心とする学外参加者と、科目の一つとして履修している一年生から四年生までの大学生たちとの間で、意識や目的、熱量が異なることは、所与の、致し方ないことである。私が毎時間、心を砕いたことは、井上ひさし氏の「むずかしいことをやさしく」「ふかいことをゆかいに」ではないが、いかにして双方の問題関心を架橋するような授業を展開するか、ということであった。

授業では、時折コメントペーパーを配布し、また教壇をおりて教室を歩き回り、様々な人生経験をお持ちである受講生の方々、あるいはこれから様々な道に進もうとしている大学生たちと対話を試みながら、今日の学問界における最先端の様々な研究成果を披露し、日本政治思想史への関心をさらに深めていただけるよう心がけた。

学外受講生の方々には授業後にも話しかけてくださり、そこでの対話は、私にとって大変に貴重な学びの契機となった。ある方は、ご自身がかれまでに記された非常に興味深いご論文を送ってくださいました。横井小楠の政治思想を授業で取り扱った折に、ご親戚の関係で、越前福井藩士・村田氏寿に関する貴重な史料を個人的に提供してくださった方もいらした。さらに別の方は、「定年を迎え、いろいろなこと

を考えていたが、この授業に参加するなかで、改めて歴史を研究することのおもしろさに気がつきました」と仰ってください、ご自身の今後の壮大な研究計画についてお示しくくださった。このような学問交流は、私にとって大きな励みとなった。

東京女子大学の学生も、負けじと教室の前列に座り、学外受講生の隣で熱心に講義に耳を傾け、懸命にノートをとっていた。彼女ら大学生にとって、シニアの受講生の存在は、何よりも大きな刺激になったであろう。学問とは、決して大学を卒業したら終わりではなく、天寿を全うするまで一生続く、人間の知的営みである。学外受講生の方々のお姿は、そのことを無言のうちに示してくださっていたと思う。

第一四回目の最終授業では、最後に、丸山眞男氏が敗戦後の一九四六年に著した論文「超国家主義の論理と心理」に触れることができた。その上で、次のような話をさせていただいた。「私たちは、歴史からまだ多くのことを学ばなければなりません。歴史は、決して閉じているものではありません。様々な史料や研究書を紐解けば、それは明らかになります。閉じているのは、もしかすると私たちの心なのかもしれません。面倒くさいなど思わずに、一歩踏み出して、図書館に足を運んでください。特に東京女子大学には、丸山眞男文庫を含む、素晴らしい図書館があります。そこで史料や専門書に触れ、ご自身の手で、歴史を開いてみてください」。この講義を通じて、さらに多くの方が丸山眞男文庫に関心を持ってくださることになれば、こんなに嬉しいことはない。

このような貴重な機会を与えてくださった平石直昭先生、様々なサポートをしてくださった山辺春彦さん、川口雄一さんをはじめとした丸山眞男記念比較思想研究センター事務局の方々、東京女子大学の学務課や教育研究支援課の方々、皆様に深く御礼申し上げます。

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター 公開授業
2017年度 受講者募集のご案内

東京女子大学では、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる科目として「比較思想」(半期完結)を設置いたしました。この科目は丸山眞男記念比較思想研究センターの企画により開講するものです。2017年度は、後期に開講し、学部学生と共に学外の方々にも公開いたします。下記の要領にて受講者を募集いたします。

科目:比較思想

近代日本の政治思想と外交

講師

大久保 健晴 氏

(慶應義塾大学 准教授)

授業概要

近代東アジア世界の歴史的な起源に遡り、「私たちはどこから来て、どこへ向かおうとしているのか」という問いを思想的に検証する作業は、今日きわめて重要な意義を有しています。

この講義ではそのような問題関心のもと、西洋世界との文化接触に光を当てるとともに、東アジアの学問・政治・外交の動向を広く視野に入れながら、19世紀から20世紀に至る近代日本の歩みについて、比較思想史の視座から検討します。

教材

教科書は特に指定しませんが、下記を読むと、復習や予習の役に立つと思います。

大久保健晴『近代日本の政治構想とオランダ』東京大学出版会、2010年

宮村治雄『新訂 日本政治思想史—「自由」の観念を軸にして』放送大学教育振興会、2005年

講師プロフィール

(おおくぼ・たけはる)慶應義塾大学法学部政治学科卒業。東京都立大学大学院社会科学研究所政治学専攻博士課程単位取得退学。博士(政治学)。東京都立大学法学部助手、明治大学政治経済学部准教授を経て現職。専攻は日本政治思想史・比較政治思想。おもな著書に、『近代日本の政治構想とオランダ』(東京大学出版会、2010年)、*The Quest for Civilization* (Brill, 2013)、『日本の外交 第3巻 外交思想』(共著、岩波書店、2013年)、『政治概念の歴史的展開 第9巻 「天皇」から「民主主義」まで』(共著、晃洋書房、2016年)など。

要 領

- 期 間 2017年9月25日(月)～2018年1月22日(月)(全14回)
※11月13日、12月25日～1月8日は休講です。
※講師の事情による臨時休講は授業内で説明を受けてください。
- 時 間 毎週 月曜日 3時限目(13:15～14:45)
- 会 場 東京女子大学 (教室は初回当日正門付近の掲示板でご案内します)
- 対 象 原則として18歳以上の男女
- 定 員 30名
- 受講料 10,000円
※テキスト代等は含みません。
※一度納入された受講料は返却いたしません。ご了承ください。
* 授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おきください。

受講までの流れ

・申込方法

申込書にご記入の上、2017年9月4日(月)までに丸山眞男記念比較思想研究センター宛にご郵送いただくか、電子メールにてご応募ください(必着)。

・結果通知

9月8日(金)までに結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選のうえ受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

・受講料納付

受講を認められた方は、結果通知はがき記載の口座に受講料をお振込みの上、結果通知はがきを授業初日に会場にお持ちください。

送付・問合せ先

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1
東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター「公開授業」係
TEL: 03-5382-6817 E-mail: marubun@lab.twcu.ac.jp
HP: <http://office.twcu.ac.jp/univ/research/institute/maruyama-center/>
* 事務取扱時間: 月・水・木 10:30～16:30(昼休みを除く) 8月休み

丸山眞男記念比較思想研究センターは丸山眞男文庫を所管する研究機関です

丸山眞男の思索の跡を伝える約2万冊の蔵書と約3万頁の草稿類が1998年に東京女子大学に寄贈されました。東京女子大学は、国際的な丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理を進めるとともに講演会、公開研究会、公開授業等を開催しています。

2012年4月より2017年3月まで、研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」(略称「丸山眞男研究プロジェクト」)を実施。2015年には、丸山宅での蔵書状況をウェブ上に再現した「丸山眞男文庫バーチャル書庫」(<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/shoko/>)、丸山のノート・草稿類のウェブ閲覧を可能にした「丸山眞男文庫草稿類デジタルアーカイブ」(<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/archives/>)を公開しました。